

## 9 熊本地震が及ぼした採卵鶏農場への影響

熊本県城北家畜保健衛生所 ○越智<sup>おち</sup> 春陽<sup>はるよ</sup>、川邊<sup>かわなべ</sup> 久浩<sup>ひさひろ</sup>

平成 28 年 4 月 14 日以降に発生した熊本地震(14 日の最大震度 7 の地震を「前震」、16 日の最大震度 7 の地震を「本震」という、以下同じ)が管内の採卵鶏農場に与えた被害について鶏舎及びケージ構造、日齢の面から検証し、また、長期的な地震の影響についても考察を加えたのでその概要を報告する。

### 1 管内地域の被害概要

管内 3 地域のうち、鶏舎倒壊や停電等による付帯施設の故障により死亡した鶏は菊池、玉名地域でそれぞれ約 6,200 羽、約 200 羽であった。鶏舎倒壊のため飼養中の鶏を緊急搬出した農場は菊池地域のみで 5 戸約 274,000 羽(県内採卵鶏飼養羽数の 11%)あり、この 5 戸は現施設での継続飼養が困難となった。鹿本地域での被害は認められなかった。

### 2 検証結果

#### (1) 鶏舎及びケージ構造の違いによる被害の差

- ①鶏舎骨格による比較：高床式鶏舎の中で鉄骨の場合は、直立ケージが倒壊したが鶏舎は倒壊しなかった。木造の場合は、支柱が折れて鶏舎が倒壊した。低床式木造鶏舎(平飼)では、鶏舎の基礎部分のひび割れや壁の歪みが確認されたが、倒壊は免れた。
- ②ケージの種類による比較：直立式と A ライン(ひな壇)式ケージの比較では、直立式ではケージが倒壊したが、A ライン式では修繕を行うことで継続飼養は可能であった。
- ③飼養の有無(重量)による比較：同時期に建てられた直立 5 段ケージにおいて、地震発生当時鶏を飼養していたケージは倒壊したが、空舎であったケージは倒壊を免れた。
- ④産卵率への影響：高床式鉄骨鶏舎(A ライン)と低床式木造鶏舎(平飼)において、前震前及び前震後 1 週間の産卵率平均の差は、高床式で 4%、低床式で 8%低下した。

#### (2) 日齢による被害の差

同一農場の低床式木造鶏舎で飼養されていた 6 群(本震時 173~446 日齢)において、産卵ピーク時である 236 日齢以外の鶏群で前日比 12.1~39.7%の産卵率低下を認めた。

#### (3) 長期的な影響

本震から 3 ヶ月後も産卵率、個卵重、食下量が標準曲線を下回り続ける鶏群を認めた。

### 3 まとめ及び考察

管内で最も震源地に近い菊池地域で被害は最大であり、鶏舎及びケージ構造による被害の差では、高床式木造鶏舎又は直立5段ケージで被害が大きく、また、重心が上部に偏ったケージで倒壊しやすいことが示唆された。平飼鶏群での産卵率の低下は、ケージ飼い鶏群と比較し、揺れに慣れていないことが原因と考えられた。産卵ピーク時以外の日齢では地震により産卵率の低下を認めたが、ピーク時の鶏群での影響は小さかった。今回の地震による被害は発生直後に限らず、長期的な生産性への影響も示唆されたことから、今後も養鶏経営への影響を継続して検証していく必要がある。